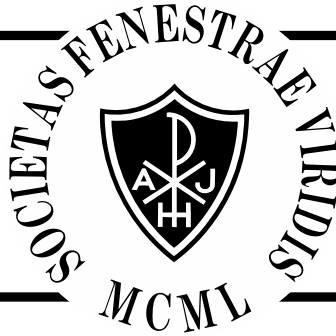


緑窓

第21号



青山学院中等部緑窓会会報
2012年(平成24年)5月1日発行
青山学院中等部緑窓会 発行人 崎田克巳
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL / FAX : 03-3498-5387
E-mail : ryokusoukai@ceres.ocn.ne.jp
web site : http://www.ryokusou.net/

緑窓会の行事の中心は礼拝

中等部緑窓会会長 崎田 克巳 (一四期)

二月に入ってすぐの日、電車の座席でウトウトしていると、目の前に立っている女子高校生らしき二人が、青山学院の話を始めました。母校の名前が聞こえた途端に目がさえ、耳を傾けてしまいました。「いよいよ二月ね。本命の青学は絶対に頑張らなくっちゃ!」「そうね。頑張ろうね」なんていつても、毎日あのキャンパスの礼拝に通えるなんて最高じゃない」と受験生が青学への夢を楽しそうに話しています。

私たちは緑窓会は、毎年六月に「緑窓会の日」を、そして秋には中等部の生徒達と一緒に「中等部ジュビリーズ式典」を行なうて、卒業生の母校回帰を促しています。この緑窓会行事の中心は何でしょうか。それは礼拝です。卒業生それぞれが中等部生であったころ、好きでも嫌いでも毎日必ず過ごした礼拝の

時間によって、今在る自分になったこと。そして再び礼拝の時間を過ごすことで、これまでの人生への感謝と、隣人への思いを馳せることが、緑窓会の行事のもっとも大きな意味なのです。私は青山学院校友会のお手伝いもしており、さまざまな青山学院卒業生と話す機会があります。そこでは厳しさを増す昨今の社会情勢から、「愛校心」の在り方が頻繁に語られています。母校を愛する心は、友との交わり、恩師への感謝など人それぞれだと思えます。しかし青山学院に限って言えば、礼拝を抜きにした私たちの母校はないと思います。私たちが愛校心を語る時、そこには常に礼拝の思い出があることを忘れられませんが、緑窓会は母校の礎である礼拝を通してこれからも楽しい集まりを考えていきます。

今年は六月九日(土)に開催

第二三回「緑窓会の日」

実行委員長 二井 昭重 (二三期)

中等部の卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。「緑窓会の日」は、すべての卒業生のために「原点・祝祭・継続」をテーマとして毎年一回開かれますが、今年は二三回目となり二三期生が幹事を務めます。

私たち二三期は、今年のコッセプトを「中等部」懐かしさから今日、そして明日」としました。第一部は「音楽」がサブテーマの催しで、同期生と現役の中等部生徒の共演を楽しんでいただきます。第二部のサブテーマは「先生」で、往年の先生から現役の先生までをお招きして、お話を伺います。

今回、二三期実行委員会としては自分たちができることを精いっぱい生かして、手作りのように楽しんで「緑窓会の日」

を作りたいと考えました。それは、中等部で授けられた「みんな協力」の精神と楽しさを思い出してのことです。一方、私たち卒業生は母校が生き生きとしていてこそその存在ではないだろうかと考えました。そうなる今の中等部を知りたい、どこに向かっているのだろうかなど、思いが巡り始めました。そして、この思いをご来場の皆様と共有できれば楽しんでいただけるとは思いませんかと企画を練りました。

催しでは、音楽を楽しみながら、現役中等部生からは今の中等部を感じ、先生方のお話からは時代の変化を知ろうというのが狙いです。中等部の明日について、会場にいらして、ご自身で思いを巡らせてください。

第二三回「緑窓会の日」のご案内

プログラム

◇礼拝 一三時三〇分～一四時二〇分 青学講堂

司式 黒川(松岡)裕子(二三期)

お話し 西田恵二郎(中等部宗教主任)

演奏 大久保(松居)直美(二三期)

◇催し

第一部 一四時三〇分～一五時一五分 青学講堂

「音楽をテーマに卒業生と在校生が共演」

第二部 一五時二五分～一六時一〇分 青学講堂

「先生方に何う思い出、今日、そして明日」

◇茶話会 一六時二〇分～一七時 短大食堂

催しの主な出演者

◇第一部―音楽演奏

大久保(松居)直美(オルガン) 一九七二年卒

中等部吹奏楽部 一九八〇年発足

中等部ハンドベル部 一九八〇年発足

中等部オルガン同好会 一九八〇年発足

◇第二部―パネルディスカッション

斎藤美佐子先生(音楽) 一九五二～一九九一年

千輝克忠先生(体育/教頭) 一九六七～二〇一〇年

石出道雄先生(社会) 一九六八～二〇〇九年

山本節子先生(社会/教頭) 一九七五年～

小田文信先生(英語) 一九八六年～

山本与志春先生(国語/部長) 一九九〇年～

二〇二一年五月二十八日 第二三回「緑窓会の日」報告

第二二回「緑窓会の日」に多くのご参加をいただき、ありがとうございます。歌舞伎公演には素人の私たち実行委員がプログラムを作成し、指定席券を発売、当日一五〇〇人以上の参加者を混乱なくご案内できたことは、奇跡のように思えます。ふだん見られない舞台設置の様子や、三津五郎、直吉さんたちの真剣なリハーサルは感動的な思い出として心に残っています。

二二期の仲間、緑窓会役員、先輩方には惜しみないご協力をいただきました。皆様のおかげで東日本大震災復興支援に募金できたことも心より感謝しております。

二二期副実行委員長 大石由美子
出演して思ったこと

このたびの「緑窓会の日」はいささか大がかりな演目ということもあり、実行委員の同期生と結束を固め、細心の注意を払いながら準備を進めました。当日は雨にもかかわらず、過去最高の人数の方がお集まりください、大きなトラブルもなく終了できましたことは、卒業後四〇年たっても変わらぬ友人との絆、また神のお導きがあったればこそと、感動と共に深く感謝いたしております。

坂東三津五郎(守田寿)

何十年振りに会った同期生が力を合わせ、青学講堂での歌舞伎公演を実現、成功させました。二二期の団結力は本当に驚きです。幕が開き、懐かしい顔、だらけの満員の客席を見た時の感激は一生忘れることは無いでしょう。大震災後の公演にもかかわらず大勢の方たちにご来場いただき、微力ながら復興支援の協力も出来ました。最高の仲間と楽しい舞台が出来、卒業生であることの誇りと幸せを実感しました。

杵屋直吉(杵家吉彦)



坂東三津五郎さん(右)



歌舞伎舞踊「棒しばり」



杵屋直吉さん(左から2人目)

七月二十九日～八月一日 中等部ラグビー部の釜石合宿に同行して

元中等部教諭 石出 道雄

「今年の夏期合宿は釜石に行きま
す」。練習時間は十分取れなくて
も、多感な年代の生徒は何かを肌
で感じ取ってくれるだろうとの期
待に、私の心は高鳴ると同時に、
顧問教師の学校・保護者に対する
対応の苦勞・努力を慮り、頭の下
がる思いでした。

例年の合宿開始当日とは異なり、
生徒は緊張気味。釜石市内に入る
とさらに口数が減り、窓の外の風
景に目が釘付け。宿舎に着いても
緊張気味。四階建ての二階まで津
波の被害を受けた宿舎で三泊四日

の合宿。ブルーシートで囲まれ、
うす暗い裸電球の下で、紙食器に
より、普段ならば文句が出るだろ
うメニューの食事。風呂も宿舎に
はなく、試合・練習後にクラブハ
ウスでシャワー。就寝時には余震
の不安。
津波で家族を亡くされながらも
現地で私たちの全行程を見てくだ
さった方の「君たちは親子げんか
が出来る幸せを感じてほしい。私
は夫婦げんかも出来なくなつてし
まった」との言葉に参加者全員心
を打たれた合宿でした。



釜石町東前町の状況を見学



復興支援中学生大会—対滝沢南中学校



新生釜石教会で柳谷雄介牧師から話を聞く

(撮影は筆者)

五月二十八日 「サポート」による同期会開催

二〇一一年の「緑窓会の日」に向
けて、緑窓会は、「同期会サポート」
をスタートしました。

卒業一〇年、二〇年、三〇年目に
同期会を開き、同期、同窓のつな
りを認識してもらうことを目的に
しています。緑窓会の担当者が、会
場であるアイビーホールの予約、先
生への連絡、招待はがきの作成等のサ
ポートを行なうので、同期会を開催
したことがない期幹事の方も気軽に
開催できます。

昨年は、五月二十八日、「緑窓会の日」
の行事の後、アイビーホールにおい
て三三期、四三期が開催しました。
大変好評で、三三期は今年も計画し
ています。実現できなかった五三期
は「今年こそ」と準備を進めていま
す(今年の対象期である、三三期、四
四期、五四期と五つの同期会が同時
開催の可能性もありそうです)。

二五歳も、三五歳、四五歳も、仕
事も家庭も忙しい年代です。これま
で緑窓会とのつながりが少なかった
五〇歳未満の方たちが、これをきつ
かけに、緑窓会の活動に参加してく
ださることを期待しています。

担当 小平昌邦(会計 一八期)

九月 大学同窓祭に参加

九月二三日、第一八回青山学院大
学同窓祭で、三回目となるコーヒー・
シヨップを出店し、二回目の公開講
座を開催しました。

コーヒー・シヨップのために揃い
のグリーンのエプロンを新調。いちよ
う並木のテントでの販売に加えて、
出前サービスも始め、四五〇杯のブ
ルーマウンテンを来場者に味わって
いただきました。吉野比洋児さん
(一八期)による公開講座のテーマは、
「商人が見たスポーツという世界」古
代オリンピックからスポーツマーケ
ティングまで。一、一館(二号館
裏)の教室に六十余名が出席しました。

緑窓会定例役員会報告

◇二〇一一年度第一回—四月二三日
二〇一〇年度活動・収支報告案お
よび二〇一一年度活動・予算案、東
日本大震災の支援方法が討議、承認
されました。校友会常任委員三名、
代議員二〇名(再任一三・新任七)が
承認されました(氏名はウェブサイ
ト参照)。

◇第二回—二月一〇日

二〇一一年度活動・収支の中間報
告、二〇一一年度活動・予算案が討
議されました。

第一回ジュビリー式典での呼びかけに寄せられた

先生の思い出

古田十郎先生

一九四七年～一九五二年

初代中等部部长

一期 松岡 正治

先日はジュビリー記念式典に出席出来、六十余年前、中等部で過した三年間をなつかしく想い出し、感謝の気持ちで一杯になりました。

一期生が入学した昭和二十二年は、教育制度が変わり、公立中学校は受験出来なくなり、新しく出来る新制中学か、私立の学校を受験するかの選択を迫られた最初の年でした。

当初は筆記試験もありましたが、試験をしてはいけないという通達が国から出たので、改めて面接が実施されたと記憶しています。

中等部発足当時、学校から渋谷迄瓦礫が多く残り、駅がよく見えておりました。

古田先生は、寡黙でしたが、よく中等部を掌握しておられました。面接の時、尊敬している人は誰かと聞

かれ、「マッカーサー元帥」と答えると、「今幾つか？」と言われました。自分の事を言われたと思い「十三歳です」と言うと、「君の年を聞いて

いるのではないよ」と言われ、破顔一笑されました。当然落ちたと思っただけで入学を許されたのが不思議でした。二期三期に妹が在籍出来たのですが、下の妹の時は、古田先生が父兄同伴の父に向い「これで終わりですか？」と言われ、入学が決まったのでした。

個性的な先生が多かったのですが、今井義子先生には日本文学のよさを教えて貰いました。「紅葉（モミジ）会」という日本文学を勉強する小さなグループを作られ、時々名著を読む会を開いておりました。今は亡き足立顕さんの経営する伊豆の落合樓に泊りがけで、合宿のような事をしました。今尚、現役で活躍している内海孚氏や飯久保廣嗣氏が活発な発言をしていたのが印象に残っています。

後年、楠本健吉先生に俳句を習おうという今井先生の提案で、今井先生宅で、俳句の会が生まれました。会場は、灘万（ナダマン）でやった事もあり、先生が病気になる迄、三年間続きました。楠本先生は、中等部在籍は短く、一期生は直接の指導はありませんでしたが、俳句の話

の後の人生相談がとても面白く、今はなつかしい思い出として残っております。

二期 宮内 實太郎

古田十郎先生

貫禄十分な、さすが部長先生。豊田実院長とのコンビ、今でも当時をありありと思い浮かべることが出来ます。今回の先生の思い出で、全ての先生の名前を久しぶりに一覧出来て懐かしい限りです。

さて、古田先生の授業は「憲法」でした。戦後のこともあったのでしょうが、教科書は黄色いB五判大のそれほど厚くないものでした。部長先生の授業、皆は、かなり緊張していた様子でした。授業開始、クラスの名簿に目をやり、「さて、誰に教科書を読んで貰おうかな」。一瞬シーンとした後に、何と、「宮内君」と指名されました。どうして自分かと思いましたが、何とか無事読むことが出来ました。「よく読めた」とは言われませんが、前日に、予習をしておけばよかつたとつくづく思いました。

当時の教室は、仮で、現在の大学の場所、野球が出来るグラウンドが校

舎に隣接してありました。やがて、現在の場所に木造の新築校舎が完成し移転しましたが、運動場の片隅に古田先生の居宅があり、登校時に時々紐のついたゴルフボールをシヨットしていた姿も思い出です。

先生は多趣味というか、画家の向井潤吉画伯、落語の金馬師匠の講演が講堂であつたことも先生のお蔭、たつたと記憶しています。卒業後の記念同窓会で、ライカM3を胸にかけていたことも……当時、高感度カラーフィルムASA400発売—昭和五一（一九七六）年九月。市場は品不足でしたが、勤務先が富士写真フイルムだったので、早速調達、お届けして大変喜ばれました。

中等部在学当時は授業の一環として、農業？があり、実習農場は、丸子玉川鉄橋の下、同地は単車レース練習も近くでしていました。その後農場は東横線都立大学（目黒区平町）になりました。後年、懐かしく同地を確認したら畑はなく住宅地、表札は「古田十郎」とありました。

付け加えれば、古田先生と私の父（新聞記者）は、戦時中マニラ（フィリピン）で知己であつたとか、七〇年前、昔々のことです。思えば、渋谷から青学の通学路にも雑木林、雨が降れば大きな池がありました。

吉川(上参郷) 和子先生

一九四七〜一九六一年

家庭科

二期 川瀬 誠治

終戦から三年後に激動期を経て二期生として入学した我々にとつて、中等部は学生時代を通じて最も楽しい、印象深かつた三年間であつた。

懐かしい先生方の中でも、三年の担任であつた吉川(上参郷)和子先生の思い出が真先に蘇ってくる。

先生は家庭科をお教えだったので、我々男子生徒との接点は少なかったが、担任としてほんとうに熱心に指導いただいた。髪を結い上げて落ち着いたお姿から、まさか我々と一〇歳前後しか年が離れていなかったとは、後になって初めて判つたことであつた。いつも「カミさん」のニックネームで呼ばせて頂いたが、ホームルームでのお話、秋の運動会でD組優勝の喜び、関西への修学旅行の思い出、枚挙に暇もない。

先生との思い出は、学校時代よりもむしろ卒業してからの方が多い。大学時代に教え子五人がお供をして佐久間・天竜峡・飯田・蒲郡への旅

行、同じ大学時代にクラス全員で摩湖へのハイキング、全学集会後に先生のご自宅へ皆でお邪魔したこともあつた。

我々が還暦を過ぎて二〇〇〇年頃からは、四〜五回に亘つて「吉川先生を囲む会」を開いて親しく食事をさせて頂いた。晩年に先生が骨折された時は、全快後にお祝の食事を開いた。健康を害し入院された時には代わる代わる病院へお見舞いに伺つた。先生は人生の後半に洗礼をお受けになり、教会でオルガン演奏をなさつていたが、二〇〇九年八月、八五歳で御許に召された。

中村三朗先生

一九五〇〜一九九一年

社会科

二期 高久 容

我等の担任「サブちゃん」と

「一〇八つの瞳」

ここ東京の渋谷の青山学院中等部にも、一九五二年に、壺井栄が発表した小説「大石久子先生と二四の瞳の一二名の生徒達の物語」と同じような、担任のサブちゃんと我々生徒

達の話があつたことを知つて頂く良い機会と考えてこれを書いてみました。

我々三年C組クラスメイト五四人は、中村三朗先生通称サブちゃんが担任で、一九五一年に卒業しました。一九五〇年から二〇〇四年まで、我がが一五歳のときに初めて教えを受けて以降六九歳まで、サブちゃんが他界された年までの半世紀を越えた五四年間と言う長い間、サブちゃんとは、大変親しいお付き合いをさせて頂いておりました。

これほど長い年月非常に頻繁にお付き合いを頂いたのもサブちゃんも奥様も我々には、間違いなく師弟関係を越えた親密感をお持ち頂いていたからと今でも思っています。奥様になられた方も、ご結婚前までは同じ中等部で一期生を担任されていた池原喜美子先生で我々も絵を教えるもらつていました。

サブちゃんは、七五歳ころから、ご病気で体が不自由になり、「介護つきのケアハウス」で療養されておられ、横浜にあつた入院先へも友人達と度々お見舞いにも伺っています。ご病気でサブちゃんが二〇〇四年に七九歳で他界されたとき三Cの仲間達とご葬儀に参列して悲しいお別れがありました。

先生の話をするときには、皆、先生とは言わず、サブちゃんと、先生の前でも奥様にも親愛の情を込めてニックネームで呼んでいましたのでここでもあえて、サブちゃんと、呼ばせて頂きます。

中等部では僅かに一年だけのお付き合いでしたが、何故か？三年C組の皆が、サブちゃんには懐いて、卒業後もかなり頻繁にサブちゃんの成城のご自宅や目黒の新婚のご新居にまで皆で押しかけるようになっていました。

ご結婚以来、サブちゃんと喜美子夫人には、三Cのかんりの仲間が長い間、社会人になつてからも、ご病気で倒れられるまで、お宅にお邪魔して大変お世話になつていますし、三年C組ではなかつた他の組の同級生達何人も一緒でした。

誰が名付けたか知りませんが、サブちゃんを囲む我々の仲間の会をご夫妻のお名前の一部をとつて「三喜会(サブキカイ)」と呼んでいました。

◆この後に続く「エピソードの幾つか」は、紙面の都合で掲載できないことをお詫びいたします。

◆「先生の思い出」は、まだ募集中。まとまつたら発行する予定です。

一〇月 中等部運動会で応援

昨年、一〇月八日(土) 絶好の晴天に恵まれて、運動会が中等部校庭で開催されました。二〇〇九年のインフルエンザ、二〇一〇年の雨天順延と違って、正に運動会日和の下、全種目が行なわれ、早朝より大勢のご父兄の皆様が大声援を送りました。

緑窓会は三年前より年号の入ったスポーツタオルを、学年優勝のクラス及び個人賞として贈呈しています。だんだんと認知されつつあるようで、このタオル獲得のためにクラスが一致団結して練習している様子が見えます。ただ本年度は一年生のクラスが増えたため、三学年を通しての総合優勝はなしとなりました。

私は毎年、三年生女子の借り物競走をテントの最前列で応援しています。今年度はスタート地点と近すぎたため、通過されてしまうことも多かったのですが、それでも五〇円玉やティッシュ等、いろいろな用意して競走を待ちます。どの生徒さんも終わると「ありがとうございます」と言っていて返しに来られます。いつもそのきちんとした後輩の態度が清々しく、嬉しく思う瞬間です。

西本由里子(会計 一八期)

十一月 第二回ジュビリー式典を開催しました

十一月五日、中等部祭開会礼拝に合わせ、第二回ジュビリー式典が開催されました。対象期は「ダイヤモンド・ジュビリー」が三期、「ゴールドデン」が一三期、「シルバー」が三八期です。朝八時半、約八〇名の方が青学講堂に集合。生徒が進める開会礼拝に続く式典で、各期の代表が

山本与志春中等部部长からジュビリーの盾を受け取り、その後、ひとりひとりに生徒から盾と記念品が渡されました。第一回式典の後、生徒から提案されたさまざまな工夫と先生方のご協力によって、スムーズな進行ができました。短大食堂でお茶とお菓子が歓談の後は、中等部祭見学。

六〇年、五〇年、二五年前とすっかり変わった様子、変わらない生徒の元気な活動を満喫していただきました。多くの方から「賞もうれしかったが、何よりも生徒と一緒に守った礼拝が感動的だった」という言葉をいただきました。

今年は一二月一〇日、対象期は四期、一四期、三九期です。集合時間は少し早めですが、この感動を味わいにお出かけください。

富士野ゆかり(副会長 一二二期)



短大食堂で歓談



生徒から



代表者へ贈呈



開会礼拝



記念の盾とタオル



保科隆夫さんがあいさつ

正月 箱根駅伝総合五位!

今年も中等部緑窓会は一月二日と三日、京浜急行「立会川」で箱根駅伝を応援しました。通過予定時刻の一時前前に集まり、緑地に白で「青山学院大学」と染め抜かれたのぼりを、二〇本以上国道一号線沿いに立てました。

往路(二日) 一区の佐藤研人君と復路(三日) 一〇区の大谷遼太郎君を校友とその家族三十数名が小旗を振り、選手の名前を叫んで声援を送りました。

往路応援後、崎田会長と松元は今年も箱根の山を登り、小涌園先で五区の小嶺篤志君を応援しました。

復路応援後は「そば会席 立会川 吉田家」に、有志一〇名が集まり、ゴールの感動を分かち合う新年会となりました。

成績は青学史上最高の総合五位! 二区の出岐雄大君は青学史上初の区間賞! 素晴らしい成績を残してくれました。



大谷遼太郎選手

松元茂(副会長 一六期)
写真撮影は、平森均(二二期)

同期会 クラス会 便り

一三期 同期会



一三期は昨年の一二月五日、五年ぶりに中・高等部合同の「六五同期会」を開きました。当日は早朝から青学講堂で中等部祭の開会式やジュビリーズの式典があり、中等部卒業五〇年を迎える我々一三期はゴールデンジュビリーの授賞式に二〇名程が出席。孫のような現役の生徒からすてきな記念品を手渡され大感激でした。中等部祭を見学した後、骨董通りの「うすげぼー」に移動し、一時半からの同期会に出席しました。中等部からは齋藤美佐子先生が来てくださり、計一〇四名が集まりました。五室に分散する変則的な会場でしたが、皆の協力で和気藹藹、旧友との再会に心は弾み、思い出話や全員参加の〇×クイズで大いに盛り上がりました。

二次会は青学会館の「フイリア」で六〇名が参加、更に渋谷に流れ三次会が終了したのは夜も大分更けておりました。ジュビリーズの式典と同期会の同時開催は大変良かったと思います。

三好豊

一四期 一年B組クラス会

二〇一一年一月一九日、アマポーラ恵比寿店にて。

伊藤いく代先生が関西から鎌倉にお住まいを移されたとい、一年B組のクラス会を一五、

六年振りに開きました。

初めに、九月に亡くなった友人をしのび、黙祷が捧げられました。

一九名の参加者全員が

三、四分の近況報告をし、昔のままの変わらぬ内面と、その後五一年間に経験を積んだことが表れている外見に驚いたり、納得したりしました。質問が飛び交い、答えに爆笑する光景もありましたし、近年始めた趣味の成果の披露には、感心し、エールを送りました。スペイン料理に舌鼓をうちながらの



三時間はあっという間に過ぎ、集合写真撮って解散となりました。今回は海外在住の友の参加も期待し、より多くの方々の再会を心待ちにしています。

清瀬 雅子

二二期 F組クラス会

昨年一月五日、神楽坂にあるジャズレストラン「もりの家」において、一〇年ぶりのクラス会が、二二名の参加で催されました。

担任でいらした「文ちゃん」こと佐藤文則先生も、御年八〇歳とは思えぬかくしゃくとされたご様子で参加くださり、昔の悪ガキ？やお騒がせ女子？達は、懐かしさでいっぱいでした。五〇代も半ばで、皆それぞれにさまざまな時を過ごしてきたのですが、乾杯の音頭とともに四十数年前にタイムスリップ。

一次会、二次会のカラオケと延々六時間にわたる楽しく温かい集いでした。

次回は還暦のお祝いを、もっと多くのクラスメートと



もに必ず行ないましょう……と取り決めて、佐藤先生にも、その時までお元気でまたご参加くださると、お約束いただけ大変うれしく楽しみにしております。

皆さま、どうぞお元気で。

松井(杉江)伸子

「同期会サポート」による 三三期 同期会



月日が経つのは早いもので、昨年、中等部を卒業して三〇年の区切りを迎えました。三三期は、初めての同期会を五月二八日、アイビーホールで開催しました。

伊東美香子

先生、橋本和美先生をお招きして、総勢五三名で楽しいひとときを過ごしました。同期の絆を改めて実感し中等部時代を懐かしく振り返ることができました。

その後は二次会、三次会へと場所を変えて……。次回の開催を約束してお開きとなりました。

木村 誠二

東日本大震災 復興への支援

緑窓会は、昨年六月二一日、青山学院校友会の東日本大震災に対する義援金口座に二二二万円を送金しました。内訳は「緑窓会の日」にお預かりした義援金、礼拝の献金の一部(※)、第一回定例役員会で承認いただいた一〇〇万円、今までの出演者―高嶋ちさ子さん、清家篤さん、坂東三津五郎さん、杵屋直吉さん―と、会員の方一名からのご寄付です。

被災学生の支援と被災地へ行くボランティア学生の派遣資金に使用させていただきます。
※礼拝での献金から、今回もタイのチャントミット社に寄付しました。

中等部便り

★二〇一二年度人事

部長	山本与志春
教頭	山本 節子
宗教主任	西田恵一郎
教研委員長	朝野 圭三
教務委員長	津村 裕子
指導委員長	敷島 洋一
三年学年主任	小田 文信
二年学年主任	浦田 浩
一年学年主任	有賀 実男
事務長	渡邊 哲

★専任の先生の異動はありません。

年間行事予定

緑窓会		中等部	
2012年 4月		7日	入学式
5月 ～6月		29日～6月1日 30日～6月1日	3年生―旅行 2年生―キャンプ
6月	9日(土)	13日	3年生―歌舞伎教室
9月	23日(日)		
10月	6日(土)		
11月	10日(土) 10日(土)・11日(日)	6日 10日・11日	運動会 中等部祭
12月		18日	クリスマス礼拝
2013年 1月	2日(水)・3日(木)		
3月		16日	卒業式

緑窓会 会計報告案

2011(平成23)年度収支計算書

自 2011(平成23)年4月1日 至 2012(平成24)年3月31日

単位：円

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
会報発送費	1,257,980	維持会費	2,301,200
会報制作費	909,720	入金(63期)	819,000
事業費(緑窓会の日)	4,286,460	会費(緑窓会の日)	4,413,000
事業費(同窓祭)	69,387	同窓祭事業収入	90,500
事業費(Jubilees)	445,443	寄付収入	662,165
事業費(同期会サポート)	24,100	預金利息	1,654
渉外費	67,030		
会議費	53,754		
交通費	337,960		
通信費	133,993		
消耗品費	67,179		
水道光熱費	13,000		
慶弔費	21,235		
リース料	13,608		
事務用品費	105,100		
寄付金(東日本大震災)	2,220,000		
寄付金(中等部)	200,000		
寄付金(その他)	258,885		
HP管理費	22,835		
支払手数料	4,010		
本年度支出合計	10,511,679	本年度収入合計	8,287,519
本年度収支差額	▲2,224,160	前年度繰越金	10,111,316
次年度繰越金	7,887,156		

注：『緑窓第20号』に掲載した2011(平成23)年3月15日までの収支計算書とは繰越金の金額が異なります。

会長 崎田克巳 / 副会長 松元 茂、富士野ゆかり / 会計 小平昌邦、西本由里子
監事 今村和久、伊藤正道